

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
自ら学び、自ら行動する、心豊かな岩松っ子の育成	① 地域に開かれた信頼される学校運営 ② 確かな学力の定着 ③ 豊かな心と健やかな体の育成

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① 地域に開かれた信頼される学校運営						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○学校教育目標	学校教育目標、重点目標が周知されたか。	・教職員、保護者、学校評議員、地域への周知を図り、認知度90%以上をめざす。	・教職員は職員会議で、学校評議員は学校評議員会で、保護者・地域の方々は育友会総会、HP、学校便り等で説明やお知らせをする。		校長
	○危機管理	児童の安全・安心が確立できたか。	・児童の事故発生を0にする。 ・学校安全計画を基に安全教育を進め、安全指導を確実に実践していく。 ・安全・安心に配慮した教育活動が実施されていると感じる保護者を割合を85%以上にする。	・実態に即した緊急時対応マニュアルの更新 ・実効性のある避難訓練を実施する。 ・毎月の安全点検を確実に実施する。	生徒指導部	山口
	○開かれた学校づくり1	学校情報を提供できたか。	・学校の情報が分かると感じる保護者の割合が85%とする。 ・学校公開日、行事、授業参観での出席率を85%以上に上げる。	・学校だよりを随時発行すると共に、ホームページを確実に更新し、学校の情報を発信する。 ・学校公開や授業参観の広報を2度発信する。 ・緊急情報メールの受信率を95%以上に上げる。		教頭
	○開かれた学校づくり2	地域の教育力を活用した充実した体験活動ができたか。	・地域の教育力を活かし継続的に取り組んでいくことで、体験活動の成果が上がっていると感じる保護者が90%以上とする。	・総合的な学習、生活科の年間計画に地域性を活かした体験活動を位置し、活動の様子をお便りや掲示板などで発信していく。 ・水と土づくり探検事業の実施。(全学年) ・岩松寺小屋と岩松検定の実施。野菜作り(1・2年 もも)羊羹作り(4年)ホテルの飼育体験(5年)		中武
② 確かな学力の定着						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●学力の向上	児童の基礎学力が定着したか。	・全国、佐賀県学習状況調査(4～6年)における通過率が、本県平均と同等にあること。 ・CRT(1～3年)の結果が全国平均と同等にあること。	・スピーチタイムおよび算数タイムには級外職員も指導にかかわり、児童の「話す聞く」能力の向上と算数の基礎基本の習得を図る。 ・家庭学習の習慣化およびその内容を充実させるため、家庭学習強化週間を学期ごとに設定する。 ・学習にかかわる校内掲示を工夫する。 ・「岩松小学校学習スタンダード」の徹底を推進する。	学習指導部	小西
	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の推進	教職員のICT活用能力は向上したか。	・ICTの授業への活用を推進し、学び合い学習の充実を図る。 ・学び合いを取り入れた授業にICTを活用しようとする教職員の割合を100%にする。	・講師招聘による校内研修の充実を図る。 ・電子黒板・タブレット型PCを中心にICTを有効に活用する指導法を研究する。 ・有効な活用方法、有効な教材作成など情報交換をしながら蓄積していく。	学習指導部	川副
	○読書活動	読書活動の推進ができたか	・図書館と連携し、児童一人当たりの貸出数を150冊以上に上げる。	・読書ボランティアの読み聞かせの実施。 ・魅力ある図書館にするためのイベントなどの工夫。 ・本の紹介コーナーの掲示。 ・読書リレーの実施。	学習指導部	田中
③ 豊かな心と健やかな体の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育1	学ぶ喜びがあり、認め合い支え合う学級・学校づくりができたか。	・子どもたちが楽しく(意欲を持って)学校生活を送っていると感じる保護者の割合を90%以上に上げる。 ・学校が楽しいと感じる子どもの割合を90%以上に上げる。	・月に1回の生徒指導会において、児童の実態を把握し、指導方針を検討、共通理解した上で、児童が安心して過ごせる学習環境づくりに努める。 本年度は、①挨拶 ②言葉づかい(友達の名前に「さん」「くん」をつける) ③室内での過ごし方 について重点的に指導する。 ・児童に出番や役割を与え承認していく機会を増やすことで、自己肯定感を高めながら支持的風土を醸成していく。(学級経営の充実)	生徒指導部	中武
	●心の教育2	自問清掃の取組を通して、児童の変容はみられたか。	・自問清掃を頑張っていると感じている児童の割合を85%以上とする。	・校内に自問清掃の掲示コーナーを設け、児童の掃除の様子を掲示し掃除に対する啓発を図り、自発性や自立心を図る。 ・がまん日記を書かせ、それを基に指導を続け定着させていく。	生徒指導部	坂田
	●心の教育3	全教科、全領域での道徳教育の推進	・子どもたちが楽しく(意欲を持って)学校生活を送っていると感じる保護者の割合を90%以上に上げる。 ・学校が楽しいと感じる子どもの割合を90%以上に上げる。	・別業を含む年間計画を見直し、全教科・全領域での道徳教育の推進を進め、道徳実践力の育成を目指す。 ・道徳の時間「ふれあい道徳」(参観日での道徳の授業公開)の充実と「わたしたちの道徳」の活用を図る。 ・「〇月の心」やQ-Uテスト、教育相談週間において、児童の実態を把握し、必要な対応を探りながら進める。		中武
	○特別活動	児童会活動の充実	児童会集会活動や代表委員会、委員会活動において、一人ひとりに出番、役割を分担し、進んで取り組むことができるようになる。	児童会集会活動や代表委員会、委員会活動で、児童(学級集団)が自主的に出番を作り、活動する機会を保障する。	特別活動部	松田
	○特別支援教育	特別支援教育体制の確立と充実ができたか。	・校内支援委員会等を通して、対象児童の共通理解を図り、よりよい支援体制づくりをめざす。	・校内教育支援委員会を設置し、状況に応じた校内支援体制をつくり、対象児童への支援を行う。 ・子どもの特性の理解と具体的な支援についての校内研修を実施する。 ・対象児童の個別の指導計画を確実に作成する。		田中 渋谷 中島
	●健康・体づくり①	規則正しい生活習慣の推進と健康な体作りができたか。	・睡眠時間の確保 (決められた時間に寝ている児童を60%以上に上げる) …… H28年度 よくてきた◎ 第1回56% 第2回53% ・朝食喫食率及び食事の質の向上 (朝食を毎日食べる児童の割合を95%以上)	・「生活習慣調査」により実態把握をし、適宜養護教諭、栄養教諭を中心に規則正しい生活習慣や食育に関する指導を推進する。 ・集計結果等をお便りとして発行したり、給食試食会で話す場を設定したりして家庭との連携を図る。	保健体育部	平間 山田
	●健康・体づくり②	健康な体作りができたか。	全校児童の体力向上を目指す。特に、20mシャトルランの結果を向上させる。	・スポーツテストの実施方法や記録を伸ばすコツを目に見える形で提示する。 ・朝や業間の時間を使い、ラジオ体操やなわとび週間、マラソン週間を実施する。 ・3学期にマラソン大会を実施する。 ・5月と2月に20mシャトルランを実施し、伸びを分析する。	保健体育部	川内
	●いじめ問題への対応	いじめのない学級づくりと教育相談体制の確立ができたか。	・いじめの発生しやすい空気を作らない。 ・児童一人一人の居場所を作り、自己肯定感を高める。	・人権教室で、それぞれの学年に応じた話やエンカウンターを、全職員で行う。 ・児童へのアンケートを学期1回行い、その後の教育相談に生かしながら、いじめの芽を小さいうちに摘む。		渋谷
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目